7
414
A_900
6

第六章　露帝亜歴山一世ノ最後（千八百二十二年ヨリ千八百二十五年ニ至ル）

其一　ヴイエール内閣及ビ西班牙事件

ヴエローヌ會議ノ結果ハ千八百二十三年ヨリ千八百二十四年ニ亘リテ革命排斥ノ運動トナレリ然レドモ更ニ之ニ對シテ有力ナル反動ヲ生シタリ他ナシ英國ノ新政策是レナリ

非革命運動ノ爲メニ第一ニ迫害ヲ受ケタルハ言フマデモナク西班牙ナリ神聖同盟ハ往キニ西班牙ノ有罪ヲ宣告シ而シテソノ宣告ノ執行ヲ佛王路易十八世ニ任シタリ然レドモ佛國ノ首相ヴイエールハ初メヨリ

大正二年四月寄贈

妄リニ戰ヲ開クコトヲ好マズ故ニ千八百二十二年十二月二十日シャトーブリアンガヴエローヌ會議ノ最後ノ決議ノ齎ラシテ巴里ニ帰来シタル後チ更ニ一タビ力ヲ尽シテ開戰ヲ避ケムト欲シ之レガ爲メ主戰論者タル外務大臣モンモランシーノ職ヲ罷メリ既ニシテ露墺普ノ三國ハヴエローヌ會議ノ決議ニ從ヒ激烈ナル公文ヲ送リテ西班牙政府ヲ脅迫シ三國ノ全權大使ハ各ヽマドリッドヲ去リテ國ニ帰リタルノチ佛國ノ全權大使ドラガルドモ亦西班牙ノ首相サンミゲールニ一通ノ公文ヲ交付シタリソノ公文ノ言辞ハ極メテ厳励ナラザルニアラザルモ而モ亦必ズシモ同大使ガ即時ニマドリッドヲ去ルベキヲ告ゲシモノニアラズシテ猶ホ能ク協定調和ヲ計ルノ望ナキアラザリキ但ダ此調和ヲ遂ケムト欲セバ西班牙政府ハヴイエールノ希望ニ應シテ千八百二十年ノ憲法ヲ改正セザルベカラズ不幸ニシテサンミゲール及ビ其ノ同僚ハ痛ク神聖同盟ノ亡状ニ憤激シ加フルニ英國トノ同盟ニ架空ノ望ヲ繋キ固ク執リテ一切ノ譲歩ヲ爲スコトヲ拒ミ加フルニ國會ノ協賛ヲ得テ佛國大使ニ與ヘタル回答ハソノ言辞ノ倨傲不遜ニシテ路易十八世ハ視ラ以テ侮辱ヲ佛國ニ加ヘタルモノトシ佛國大使モ亦千八百二十三年一月十八日

ヲ以テマドリッドヲ去リテソノ國ニ帰レリ此ノ
時ニ至リテモヴイエールハ猶ホ西班牙政府ト
倶ニ單ニソノ外交上ノ関係ヲ絶ツニ止メム
ト欲シタルモ王ハソノ一族及ビ守旧党ノ
誘惑スル所トナリテ深ク西班牙政府ノ無
禮ヲ憤ホリ漸ク開戰説ニ心ヲ傾クルニ至
レリ是ヨリ先キシヤトーブリアンハモンモランシー
ニ代リテ外務大臣ニ任シタリシガ彼レ亦
主戰説ヲ執リテ首相ノ意見ヲ排斥シ謂ヘ
ラク若シ神聖同盟ノ為メニ兵ヲ西班牙ニ
出ダスコトヲ拒ムトキハ宜シク神聖同盟
ヲ敵トシテ戰ヲ茉因河畔ニ開クノ覺悟ナ
カルベカラズト加フルニ往キニヴイエールヲ

援ケテ政權ヲ得セシメタル守旧党ノ首領
等ガ若シ猶ホ固ク執リテ開戰ヲ肯ムゼザ
ルトキハ必ズソノ内閣ヲ傾覆スベキヲ揚
言シテ荐リニ之ヲ脅迫スルアリ爰ニ至リ
テヴイエールモ亦遂ニ奈何トモスルコト能ハ
ズシテ意ヲ開戰ニ決シ一月二十八日議院
ノ開會ニ際シテ王ハ勅語ヲ下ダシ曰ナラ
ズシテ兵十萬ヲ發シテ王甥アングーレーム公
ヲソノ総督トナシ以テ西班牙ヲ征討スベ
キヲ告ゲリ
當時國中ノ輿論ハ神聖同盟ガ佛國政府ニ
命シテ強ヒテ此戰ヲ開カシムル者ナリト
ナシ憲法國ノ君主ニシテ其ノ隣國ノ憲法

ヲ破壞シテ專制政治ヲ復立スルカ為メニ兵ヲ用フルヲ不條理ナリトナシ痛ク此征戰ヲ攻擊セリト雖ドモ而モ國民ハ之レガ為メニ叛亂ヲ起スニ至ラズ軍隊ノ中ニハ或ハ陰カニ不平ノ念ヲ抱ク者ナキニアラザリシモソノ外面ニハ皆能ク服從ヲ旨トシ四月上旬ニ至リテ佛軍ノ先衛ハ遂ニピレネー山ヲ踰ヘテ西班牙ノ境内ニ侵入セリ

其二　千八百二十三年及ビ千八百二十四年ニ於ケル反動政策

千八百二十三年ノ西班牙征討ハ佛軍ノ優勢ナリシト西班牙ノ旧教党ガ聲援ヲ佛軍ニ與ヘタルニ由リテ佛軍ハ連戰皆捷ヲ獲タリソノ交戰ノ顚末ハ必ズシモ本書ニ記述スルヲ要セズ唯ダ其結果ヲ示サムニ五月下旬ニ至リテ佛ノ総督アングーレーム公ハマドリットニ入リ西班牙ノ議會及ビ内閣ハ國王フヱルチナンド七世ヲ伴フテセヴイルニ逃レ(逃)アングレーム公ハマドリッドニ於テ攝政官ヲ設ケタリシガ攝政官ハ公ノ戒ヲ用ヰズシテ憲法党ニ對シ頻リニ迫害ヲ事トセリ既ニシテ佛軍進ミテセヴイールニ迫ルヤ西班牙議會ハ轉シテカヂツキスニ逃レ王ハ之ト倶ニカヂツキスニ赴クヲ拒ミタルヲ見テ議會ハソノ轉從中(六月十一日ヨリ十五日ニ至ルノ間)王ノ職務ヲ行フヲ停止シ次ヰテ七八月ノ交ニ及ビ

ヲ憲法政府ハ次第ニ佛軍ニ包囲セラレソノ
各地ニ配置シタル將官等ハ概子戰ヲ交フ
ルニ及バズシテ降ヲ佛軍ニ納シ英國ハ徒
ラニ甘言ヲ用ヰテ之ヲ欺瞞セルノミソノ
窮迫支フル能ハサルヲ視ルモ遂ニ之ニ救
援ヲ與ヘルコトヲ肯ムセズ九月ニ至リテ
憲法政府ハ終ニ得テ佛軍ニ抗スルノ力ナ
キヲ慮リ王ニ迫リテソノ憲法党ニ對シ寛
容宥恕ヲ旨トスベキヲ誓約セシメタルノ
チ之ヲ釋ルシテ佛軍ノ陣營ニ赴カシメタ
リ然レドモ王ハ佛陣ニ到ルノ後チソノ誓
約ヲ破リテ守ルコトヲ為サズ是ヨリ以降
残暴苛虐ナル反動ハ西班牙全國ニ起リ斷

頭臺ハ所在ニ建立セラレ革命党ノ首領リユ
ゴーハマドリットニ於テ絞刑ニ処セラレ人民ノ
自由權ハ全クソノ跡ヲ斂メ專濫ニ施至ラ
サル所ナキハ恰モ千八百十四年ニ於ケル
ガ如ク要スルニ暗愚無智ナルフヱルヂナンド
七世ガソノ專制權ヲ回復セハ徒ラニ血
ヲ西班牙全土ニ流シ其ノ親昵スル旧教党
ノ小人等ヲシテ復讐ノ念ヲ逞クスルヲ得セ
シムルガ為メニシテ之ヲ援ケテソノ權力ヲ
復セシメタル佛國人スラ苟モ正義人情ノ
心ヲ存スル者ハ皆其ノ残虐ノ太甚シキヲ
酸鼻スルニ至レリ故ヲ以テ佛軍ノ総督アリ
グーレーム公ハ旧教党ノ暴政ヲ矯ムルニ百方

努力スル所アリシモ絶エラソノ効アルコト
ナク終ニ去リテ佛國ニ還リ而シテソノ部下
ノ兵士ハフヱルヂナンド七世ヲ保護スルガ爲メ
ニ猶ホ西班牙ニ屯駐セリ

葡萄牙ニ於テモ亦西班牙ノ議會ガカヂツキス
ニ於テ佛軍ニ降ルヲ待タズシテ反動ヲ惹起
シタリ蓋シ該國ニ於テモ亦猶ホ西班牙ニ於
ケルガ如ク憲法ヲ廢シテ專制權ヲ復立セ
ムコトヲ切望セル旧教党アリテ西班牙ノ
例ニ倣ヒ佛國ノ軍隊ヲ迎ヘテソノ援トナ
サムコトヲ乞ヘリ然レドモ英國政府ハソノ
獨立ヲ保障シタル葡萄牙ノ境内ニ佛軍ノ
侵入スルヲ許サヾル旨ヲ宣言シ而シテ之

ト同時ニリスボーヌノ議會ガマドリッドノ議會ニ
連絡ヲ通ズルコトヲ禁制シ佛國ヲシテ葡
萄牙ヲ伐ツノ辭柄ナカラシメタルヲ以テアリ
グレーム公ハ遂ニソノ兵ヲ葡萄牙ニ進ムルコ
トヲ敢テセザリキ蓋シ英國政府ハ葡萄牙
ニ於テ憲法ヲ布キシ以來漸ク自國ニ敵意
ヲ表スルノ傾アルヲ見テ之ヲシテ孤立援
ナキニ至ラシメムト欲シ革命排斥ノ運動
ガマドリッドニ於テ勝ヲ得タルノチソノ餘力
施キテリスボーヌニ及バムコトヲ期望シタルニ
果シテ其ノ期望ニ違ハズシテ往キニ一タビ
憲法政府ノ顛覆ヲ企テ、敗ヲ取リタル葡
萄牙專制党ノ首領アマラント伯ハ佛國ノ兵

ノ進ミテカスチール及ビエストレマンヂユールニ到シ
ルヲ見テ王妃カルロタ及ビ其ノ子ドン、ミゲールヲ擁シテ再ビ兵ヲ起シ旧制度ノ回復ヲ名トシテ軍隊ヲ煽動シ國王ジヤン六世モ亦逃シテ叛徒ノ陣ニ投シ数日ノ後チ之ニ擁セラレリスボーヌニ入リ西班牙王フエルヂナンド七世ノ如クソノ曩日ノ誓約ニ背キテ再ビ專制權ヲ復立セリ但ダジヤン王ハフエルヂナンド王ノ如ク革命党ニ對シテ暴戾殘虐ナル復讐ヲ為スノ意アリシニアラザリシモ王妃及ビ王子ノ左右ニハ奸佞邪悪ノ徒アリテ累リニ殘暴戾ノ行ヲ事トシ之シガ為メ葡萄牙國内ハ千八百二十三年ヨリ千八百二十四年ニ亘リテ一大擾亂ヲ惹起スニ至レリソノ詳カナルハ後段ニ於テ更ニ記述スル所アルベシ

イベリヤク半島ニ起リタル變亂ハ日ナラズシテソノ影響ヲ佛國ニ及ボシ守旧党ハソノ多年熱望シタル所ヲ実行スルノ時機ニ達セリトナシテ深ク之ヲ悦ビ政府ハ守旧党ノ意ヲ迎フルガ為メ千八百二十三年十二月ヲ以テ代議院ヲ解散シ而シテ翌年二月ノ総選挙ニハ從来絶エテソノ例ヲ見ザル干渉強促ノ故ニ由リテ自由党ハ殆ムド全クソノ坐席ヲ議院ニ失ヒ之ニ次ギテ議院ハソノ議院ノ任期ヲ七ヶ年トナシ以テソノ非革命的政綱ヲ実行スルニ十分ナル歳月

ヲ得ムコトヲ計レリ是ヨリ後チ議會ハ意
ヲ決シテソノ復古的政策ヲ事トシ宗教ニ
對シ不敬ヲ加フル者ヲ嚴罰スルノ法律ヲ
設ケ革命ノ際ニ外國ニ移住シタル者ニ損
害ノ賠償ヲ與ヘ其他千七百八十九年ノ大
旨義ニ背馳シタル幾多ノ法律ヲ設クルノ
議ヲ發シ加フルニ千八百二十四年九月ニ
至リシヤルヽ十世ガルイ十八世ニ継ギテ王
位ニ即クニ及ビテ宗教協會及ビ守旧党ハ
益〻倨傲大胆トナリ議院ヲシテ頻リニ復
古的法律ヲ制定セシメタリ
佛國ノ形勢既ニ此ノ如クナルモ墺相メテル
ニッチハ猶ホ佛國政府ガ他日再ビ自由主義

ニ傾カムコトヲ慮カリ憂惧禁ズルコト能
ハザリキ蓋シメテルニッチハ極端ナル專制旨
義ヲ抱持シ頑トシテ移ルコトヲ知ラザル
者ニシテ苟モ君主ガソノ權力ヲ臣民ニ分
與スルハ仮令ヒソノ分所何カニ僅小ナ
リト雖トモ決シテ之ヲ可認スルコトヲ肯
ムセズ故ニメテルニッチノ心ヲ滿足スルニ至ルマ
デ專制權ヲ擴張セムコトハ良トニ至難ノ
事ト謂ハサルベカラズ往キニヴェロー又會議
ノ後チメテルニッチガ日耳曼ニ對シテ何カナル
方策及ビ希望ヲ有シタルカハ既ニ前章ニ
於テ之ヲ記述セリ今ヤメテルニッチハ百事ヲ
措キテ千八百二十年日耳曼聯邦ノ組織ニ

際シテ創始シタル復古政策ヲ完成セザル
可ラズ故ニメテルニッチハ屢々ソノ主墺帝ニ説
クニ北部日耳曼ノ諸君主ニ迫リテ仮令ヒ全
クソノ憲法ヲ廃止セシムルニ至ラザルモ寡
クトモソノ議會ノ議事ヲ公開スルヲ禁
シ並ニ選挙ニ際シテ到ル処ニ政府ノ干渉
ヲ加ヘ以テ其ノ憲法ヲ有害無益ノ者トナ
サシムルノ時機ニ達セル旨ヲ以テセリ是
ヨリ先キ千八百二十二年十二月メテルニッチ
ガ意太利ヨリノ帰途バヴイエール王ニ勧告シ
及ビ千八百二十三年一月ノ維納會議ニ於
テ関係諸國ノ代表者ニ迫リテ実行セシメ
ムトセシハ則チ右ニ述ルガ如キ政策ニシ

テソノ後チメテルニッチハ聯邦議會長ビユオールエス
ーエンステイン ヲ罷メテ代フルニミユンヒベルリングホース
テイン ヲ以テセリ蓋シビユオールハ人ト為リ柔弱
ニシテ決断ニ乏シキモミユンヒハ則チ之ニ反シ
テ果決シテ外交ノ経験ニ富ミ巧ミニ聯邦
議會ヲ操縱シソノ時機ノ奈何ヲ察シテ或
ハソノ議事ヲ省略シ或ハ之ヲ延長スル等
ソノ才幹ハメテルニッチヲ扶ケテ日耳曼聯邦
ヲ統馭スルニ最モ適應セルモノナリ勿論
メテルニッチガ夙トニソノ心ヲ煩ハシタル聯邦
君主ノ反對ハ是ノ時ニ至ルモ未ダソノ跡
ヲ斂ムルニ至ラズシテバヴイエール王ノ如キハ
常ニメッノ憲法ヲ抱持シテ之ヲ廃止スルヲ

肯ムゼス然レドモ日耳曼ノ諸君主中其ノ最モ頑硬骨屈セザルモノハウユルテンベルグ王ギーオームニシテ千八百二十三年ノ始メニ方リ王ガヴユローヌ會議ノ議決ニ對スル抗言ハ日耳曼聯邦中ノ專制政府ヲシテ慚愧ノ念ニ勝ヘサラシメタリ王ハ又墺國政府ノ希望ニ反シテ聯邦議會ガ千八百二十二年十二月十四日ノ迴文ニ同意スルヲ非トシソノ全權大使ワンゲンヘインヲシテ君主ノ神權及ビソノ不可侵權ニ反抗シテ大ニ正義公道ヲ主張セシメタリ而シテ王ガ一タビソノ反抗ノ例ヲ示スヤ聯邦内ノ他ノ君主モ亦往々之ヲ倣フ者アリ然レドモ此ノ間ニ於ケル西班牙及ビ葡萄牙ノ事變ハ頗ニ日耳曼君主ノ自由旨義ヲ冷却セシメ墺國ハウユルテンベルグト俱ニ全ク外交上ノ関係ヲ絶チ更ニ露國及ビ普國ヲ誘フテ亦均シクウユルテンベルグト絶交セシメ遂ニソノ全權大使ワンゲンヘインヲ聯邦議會ヨリ退ケ此ノ他聯邦議會ニ列シタル全權大使中苟モ墺國政府ニ對シテ不羈獨立ノ言動ヲ事トスル者ハ亦皆之ヲ議會ヨリ卻ケ次ヤテ議長ミユンヒノ措置ニ因リ議會ノ議事ハ千八百二十三年十二月以降殆ム全クソノ公開ヲ禁シ而シテ久シクソノ業務ヲ荒廢シタルマイヤンスノ委員會ハ再ビソノ搜査檢按ニ着手シ各地ニ於テ數多

ノ秘密會社及ビ危險ナル出板物ヲ發見シ
テ之レガ告訴ヲ為シ從來神聖同盟ノ旨議
ニ反對セル諸君主ヲシテ恐懼措ク能ハザ
ラシメタリ且ツ此等ノ諸君主ハウエルテンベルグ
王ヲ首メ議會ト俱ニ屢ニ紛爭ヲ惹起シテ
漸ク憲法政治ガソノ特權ヲ妨害スルヲ厭
フノ念ヲ生シ普王フレデリツク、キーオームガ屢ニ
ソノ國民ニ政權ヲ分與スルノ誓約ヲ為セル
ノチ終ニ真個ノ國民議會ヲ開クコトヲ肯
ムゼズシテ纔カニ地方議會ヲ開設シ政治
問題ニ就キテハ單ニ政府ノ諮問ニ應スル
ノ權利ヲ與フルニ止メ而シテソノ政務最モ
能ク整頓セルヲ見テ痛ク之ヲ感稱スルノ

趣アリ憶フニ千八百二十四年ニ至リテメテ
ルニツチガ日耳曼ノ諸邦ヲシテソノ復古的
方策ヲ採用セシムルガ為メ昔日ノ如ク甚シ
キ困難ヲ感スルコトアラサリシハ蓋シ
聯邦君主ノ心中ニ右ニ述フルガ如キ變化
ヲ來シタルニ因ラズムバアラズメテルニツチハ
千八百二十四年六月ハヴイエールニ赴キテ國
王マキシミリヤンニ會見シソノジヨハニスベルグノ
別業ニ留ルコト二ヶ月ニ及ビ往年カルヽスバ
ツト及ビ維納ニ於テ為セシガ如ク聯邦ノ諸
君主ヲシテ招致シテ相俱ニ多年聯邦
議會ニ迫リテ議決セシメムト欲シタル事
項ヲ協定シ數日ヲ經ルノ後チ(八月十六日)

聯邦議會ヲシテ遂ニソノ事項ヲ決議セシ
メタリ而シテソノ決議ノ事項ハ(一)聯邦ノ
君主ニシテ臣民ノ為メニソノ主要ノ特權
ヲ抛棄スルコトハ固ク禁止シ且ツ之ヲ勸
諭シテ其ノ議會ノ議事ノ公開ヲ制限セ
シムルコト(二)千八百十九年以來諸大學ニ
適用セル取締法ヲ励行スルコト(三)同年ノ制
定ニ係ル出版ニ関スル法律ハ更ニソノ実施
ノ期限ヲ延長スルコト則チ是レナリ而シテ
更ニ之ニ加フルニマイヤンスノ委員會ハ常ニ
励刺ナル紀治ヲ事トシ其ノ任ヲ解クノ何
ノ時ニ在ルベキカハ預シメ得テ知ルベカラズ
乃チメテルニッヒガソノ政策ノ成功ヲ誇リテ

他日欧州全土ヲ通シテ皆均シクソノ視テ
政治ノ理想トナセル家長的專制々度ヲ採
用セムコトヲ期望セルハ亦ソノ故ナクムバ
アラズ

其三　新世界ニ於ケル革命旨義

然レドモ西班牙戰爭ノ結果ハ單ニ上文ニ
記述スル所ノミニ止マラズ半島、佛朗西及ビ日耳曼ニ於テハ此ノ戰爭
ノ為メニ復古的勢力ヲ馴致セリト雖ドモ
亜米利加ニ於テハ之ト全クソノ趣ヲ異ニ
シ適〻革命党ヲシテ勝ヲ得セシムルノ媒
介トナリ而シテ英相カンニングハ之ニ乘シ

ラ神聖同盟ニ一大打撃ヲ與ヘタリ

蓋シカンニングノ巧慧ナルハ墺相メテルニッチニ優リソノ權謀ナルコト亦次シテメテルニッチノ下ニアラズ彼レハヴエローヌ會議ニ於テ兵力干渉ヲ西班牙ニ加フルニ及對シ佛國政府ガ無謀ニモ自ラソノ擁護者トナレル專制説ニ對シテ痛ク抗言ヲ為セリ千八百二十三年ノ始メカンニングハ一日倫敦駐在ノ佛國代理公使マルセリユース伯ニ會見シ之ニ告ゲテ云ク『貴國ノ為メ所ハ或種ノ政治的理論ノ為メニスル十字軍ニ外ナラズ然リ而シテ大凡ソ君主コリ出ツル所ノ政治的理論ハ我ガ國人ハ常ニ之ヲ憎ムコト蛇蝎ノ如シ若シ夫レ我ガ英國ノ政制ニ至リテハ臣民ガ君主ト戰ツテ之ニ克チ由リテ以テ獲タル所ノ戰利品ニ外ナラズ或ハ立ク王ハ自由ナラサルベカラズト足下果シテ王ノ自由ナラサルベカラズト解スルヤ否ヤ所謂ル自由ナル君主トハ其ノ實壓制ノ君主若クハ簒奪ノ君主ニシテ世界ノ害毒恐ルベキノ彗星ノ血中ニ種キ血中ニ滅スル者ニ外ナラズ』ト其ノ後チカンニングハ更ニマルセリユース伯ニ告ゲテ云ク『若シ夫レチナンド七世ニシテ英王ジヤック二世ノ如ク強エラソノ國民ノ意望ニ抗抵セバ彼レ亦宜シクジヤック二世ガ英國ニ於テ遭遇セルト同一ノ運命ニ遭遇セサルベカ

ラズ而シテソノ事例ハ施キテ更ニ貴國ニ
及ボスコトアルヲ知ラザルベカラズト佛
國政府ハカンニングノ此ノ警告ヲ聞クモ將タ
英國政府ガ佛國政府ノ既ニ兵ヲ西班牙ニ
出ダスニ決シタルヲ聞キテ頗ル不快ノ色
ヲ顯ハシタルヲ見ル敢テ之ヲ意ニ介スル
コトアラザリキ但ダカンニングハ此ノ如ク痛
ク佛國ノ政策ヲ排斥シ西班牙國會ニ對シ
テ大ニ同情ヲ表シ屢ニ之ニ約スルニ應分
ノ援助ヲ與フベキヲ以テシタルニ係ラズ
彼レハ初メヨリ絶エテ兵力ヲ用ヰテ佛國
ノ干渉ニ抗抵スルノ意アリシニアラズ彼
レガソノ干渉ヲ非難セシハ実際ニ於テ之
ヲ不正不當ノ者ト思料セシニ由シリト雖
ドモ而モ其ノ心中ニ於テハ窃カニ干渉ノ
行ハレムコトヲ希望シ佛國ノ兵ノ西班牙
ニ入リ其ノ滞留數年ノ久シキニ亘リテ西
班牙政府ヲ控制スルヲ以テ自國ノ政策ノ
為メニ便益ナリト思料セリ故ニ彼レハ冷
眼ヲ以テ西班牙國會ノ仆ルヽヲ傍觀シソ
ノ葡萄牙國會ニ連結スルコトスラ猶ホ且ツ
之ヲ許スヲ肯ムセズ蓋シカンニングハ西班牙ガ
ソノ獨立ヲ失フテ佛國ノ保護國トナレル
事実ヲ表白シ佛國ヲシテピレネー山南ニ
ソノ覇權ヲ振ハシムルト同時ニ英國ヲシ
テ亜米利加ノ殖民地ニソノ勢力ヲ擴張ス

ルコトヲ得セシメムコトヲ計レル者ニシテ彼レハ終始此ノ方鍼ニ本キテ著々ソノ効果ヲ收メムコトヲ努メ千八百二十三年ヨリ千八百二十四年ニ至ル英國政府ノ政策ハ佛國政府ノ政策ト常ニソノ歩趨ヲ同クシ佛國若シ西班牙ニ於テ一ノ利益ヲ獲ルコトアレバ英國モ亦亜米利加ニ於テ一ノ利益ヲ獲ムコトヲ求メ而シテソノ政策ハ果シテ大ニソノ効ヲ奏シタリ

カンニングハ當初先ツアングレーム公ガ兵ヲ引率シテピレネー山ヲ踰ユルニ際シ千八百二十三年三月三十一日ノ公文ヲ以テ『西班牙殖民地ノ獨立ハ事実ニ於テ既ニ成立シタル者ニシテ而シテ列國ガ之ニ公認ヲ與フルハ唯ダソノ外部ノ事情否ナ寧ロ此ノ殖民地ノ諸邦ガ能ク規律アル政府ヲ設立スルヲ得ベキ内部ノ進歩ニ関スベキ者タルコトヲ宣言セリ蓋シ此ノ宣言ノ意ハ佛軍若シ西班牙ニ留ルコト久シキニ彌ルカ或ハソノ殖民地ニ手ヲ觸ルヽコトアラムニハ英國ハ直チニ西班牙領ノ南米諸邦ト條約ヲ訂結シ以テ之ヲソノ保護ノ下ニ置クベシト言フニアリ而シテ其ノ所謂ル内部ノ進歩トハ適ヽ保守的傾向ニ進化スルノ謂ヒニシテ英國ノ欲スル所ハ西班牙領ノ殖民ヲシテ共和主義ヲ捨テヽ立君主義ヲ採用セシメ

由リテ以テ北米合衆國ノ勢力ヲ排斥スル
ニ在リ墨其西哥ガイチユルビードヲ奉シテ帝
國ヲ建設シタルノチ英國政府ガ之ニ對シ
テ最モ好意ヲ表シタルガ如キ以テソノ然
ルヲ見ルベキナリ然レドモカンニングハ時機
ノ宜シキヲ察シテ自國ノ利益ヲ進ムルニ
最モ巧慧ナル者ニシテ必要ノ場合ニ於テ
ハ共和國ト雖ドモ亦之ニ公認ヲ與フルコト
ヲ拒ム者ノアラズ其ノ故他ナシ仮令ヒ英
國政府ハ南米諸邦ニ於ケル政治上及ビ商
業上ノ勢力ヲ擯ケテ自國ノ手中ニ收ムル
コト能ハズトスルモ北米合衆國ヲシテ獨
リ之ヲ占有セシムルハ亦ソノ斷シテ許サ

ザル所ナレバナリ
千八百二十三年ノ半バニ至リテイチユルビード
ハソノ帝位ヲ廢セラレテ逃レテ倫敦ニ走
リ墨其西哥ハ北米合衆國ノ感化ヲ受ケテ
聯邦共和國トナレリカンニングハ合衆國ヲ
シテ墨其西哥ニ於ケル利益ノ配分ニ與カ
ルコトヲ得セシメザルノ極メテ困難ナル
ヲ慮カリ之ト相爭フコトナクシテ之ト相
和スルヲ得策ナリト為セリ是ノ時ニ方リ
佛國ノ兵ハ殆ムト既ニ西班牙ノ全部ヲ征
服シ且ツ永ク之ヲ占領シテ再ビ國ニ帰レ
ノ意ナキモノヽ如ク而シテ之ト同時ニ當
時佛國ノ外務大臣タルシヤトーブリアンハ嘗テ

ヴェロース會議ニ於テ露帝ト倶ニ協定セル極
メテ崇高ニシテ而モ亦極メテ空ナル政
策ヲ実行セムト欲シ新タニ一ノ列國會議
ヲ開キ神聖同盟ヲシテ西班牙殖民地ニ関
スル問題ヲ規定セシムルコトヲ計リ是
レ実ニカンニングヲシテ犀利ナル武器ヲ得セ
シムル者ト謂ハザルベカラズ蓋シシャトーブ
リアンハフヱルチナンド七世トソノ叛乱ヲ起コシ
タル臣民トノ間ヲ調停シソノ殖民地ヲ以
テ獨立ノ王國トナシ「ブールボン」家ノ王族ヲ
シテ之ヲ統治セシメ佛國ノ王族モ亦ソノ
中ニ加ヘムコトヲ企図シタルナリ然レド
モ此ノ如キ企図ヲ実行スルニハ必ズ兵力
ニ由ラザルベカラズ而シテ果シテ兵力ヲ
用ユルトスレバソノ兵力ハ佛國ノ兵力ニ
アラズシテ何ゾヤ是ニ至リテ路易十八世
ハ亜米利加ニ於テモ亦猶ホ西班牙ニ於ケ
ルガゴトク神聖同盟ノ決義ヲ実行スルノ
任ニ膺ラザルベカラズ
右ノ考案ハ當ダニ英國政府ノ怒ヲ招キタ
ルノミナラズ更ニ北米合衆國ヲシテ大ニ
不満ノ念ヲ抱カシメタリ故ニカンニングハ千
八百二十三年十月ヲ以テ合衆國ニ對シ自
國ト倶ニ佛國ノ企図ニ反對ヲ唱ヘムコト
ヲ求メタルニ合衆國ハ大ニ喜ビテ直チニ
ソノ求ニ應シタリ而シテ之ト同時ニ英國

政府ハ一通ノ公文ヲ欧洲列國ニ送リテ若シ西班牙ニシテ暴力ヲ用ヒテ南米諸邦ヲ征服セムト欲シ而シテ他國ノ之ニ援助ヲ與フル者アルカ若シハソノ商業ニ就キテハ即時ニ諸邦ノ独立ヲ公認スベキヲ宣言シ次ニテハ八月十七日ニ至リ英國政府ハ西班牙ニ属スル南米ノ諸市府ニ領事ヲ駐留セシムベキ旨ヲ西班牙政府ニ通告シ以テソノ獨立ヲ公認スルノ意アルヲ諷シ既ニシテ十二月二日ニ至リ合衆國大統領モンロー ハソノワレントン議會ニ與ヘタル國書ニ於テ極メテ厳正ナル言辞ヲ以テ新世界ノ自由政府ハ欧羅巴諸國ノ為メニ神聖侵スベカラザルモノニシテ欧羅巴諸國ハ断シテソノ内政ニ干渉スルノ権利ヲ有セステフ後来亜米利加人ノ為メニ牢乎拔ク可カラザル一大信念トナレル原則ヲ固定シタリ其ノ言ニ云ク『吾等ハ神聖同盟ガ新世界ノ或ル部分ニソノ制令ヲ行ハムトスルノ措置ヲ以テ吾等ノ平和安寧ニ危害ヲ與フル者ト視做サヾルベカラズ若シ夫レ既ニ自ラソノ獨立ヲ宣示シ而シテ吾等亦又覆熟考ノ後ヤ正義ノ旨ヲ体シテソノ独立ヲ公認シタル政府ニ對シ欧羅巴ノ或ル一ノ権力ガ之ヲ劫制シテソノ進運ヲ妨害スルノ目的

ヲ以テ干渉ヲ加フルコトアラバ吾等ハ直
チニ之ヲ以テ合衆國ニ對シテ敵意ヲ表ス
ル者ト見做サヾルベカラズ此等ノ新立ノ
諸政府ト西班牙トノ交戰ニ就キテハ吾等
ハ夙トニソノ獨立ヲ公認スル際シテ局
外中立ヲ宣示シ恪ミテ之ヲ衛守セリ今後
ソノ事体旧ニ依リテ變ズルコトナク從フ
テ我ガ政府ノ當該官衙ニ於テ吾等ノ安全
ヲ保ツガ爲メニ吾等ノ方鍼ヲ一變スルヲ
必要ナリト判定セザル限リハ永ク局外中
立ヲ守リテ渝ルコトナカルベキナリ將タ
吾等ガ欧羅巴ニ對シテ執レル所ノ政策ハ
何レノ邦國ニ對シテモ敢テソノ内政ニ干

渉スルコトナク而シテソノ実際ニ存立ス
ル政府ヲ以テ正當ノ政府ト視做スニ在リ
然レドモ我ガ亜米利加大陸ニ就キテ之ヲ
言フトキハ之ト大ニ趣ヲ異ニスル者アリ
何トナレバ今若シ神聖同盟ノ諸國ニシテ
我ガ大陸ノ一ニソノ主張スル政制ヲ行ハ
ムトスルトキハ必ズヤ吾等ノ幸福ト吾等
ノ安全トニ危害ヲ與フル者ナクムバアラ
ズ而シテ南米ノ我ガ同胞ハ苟モ力ヲ以テ
之ヲ強制スルニアラザル以上ハ決シテ自
ラ好ミテ神聖同盟ノ主張スル政制ヲ採用
スルコトアラザレバナリ是故ニ欧洲諸國
ノ南米諸邦ニ加フル所ノ干渉ハソノ何カ

ナル形式ヲ以テスルニ論ナク吾輩ハ決シテ
之ヲ冷々看過スルコト能ハズ』ト
此ノ痛切ナル宣言ト之レガ結果タル英米
二國ノ協商トガシヤトブリアンノ冒險的政策
ヲシテ水泡ニ帰セシムル者タルコトハ識
者ヲ待ツテ之ヲ知ラズ今ヤカンニングハ固ク
強硬旨義ヲ秉持シフヱルヂナンド七世ガ佛國政
府ノ勸誘ニ應シ千八百二十三年十二月二十
六日列國會議ヲ巴里ニ開キテ以テソノ米
國殖民地ニ関スル問題ヲ協定スルノ提議
ヲ為スニ及ビテ英國ハ唯ダニソノ提議ヲ
拒絶シタルノミナラズ更ニ千八百二十四
年一月三十日ノ公文ヲ以テ此ノ問題ヲ決

スベキ唯一ノ方法ハソノ既ニ成立スル事
実ヲ公認スルニ在ルコトヲ宣言セリ其ノ
言ニ云ク『今ヤ西班牙領殖民地ニ於ケル英
國ノ商業ハ著シクソノ發達ヲ為シ領事ヲ
置キテ之ヲ保護スルヲ必要トスルニ至レリ
且ツ此等ノ諸國ハ今後欧洲諸國ニ對スル政
治上関係ヲ明定スルニアラズムバ永クソノ存
立ヲ全クスルコト能ハズ而シテ其ノ事実ニ
於テ既ニ獨立ヲ為セルモノハ宜シク速カニ
之ニ公認ヲ與ヘサルベカラズ故ニ英國政
府ハ西班牙政府ガ第一ニ此等諸國ノ獨立
ヲ宣示セムコトヲ望ム』ト
カンニングハ佛國ノ兵ヲ士ノ西班牙ヲ占領セル

ヲ以テ英國ノ政策ニ妨害アリトナシ遂カ
ニソノ占領ヲ撤セムコトヲ求メリ而シテ
佛國首相ヴイエールハ夙トニカンニングノ秘計
ヲ看破シ遂カニ西班牙ノ占領ヲ撤シカンニング
ヲシテソノ辭柄ヲ得セシムルナカラムト
欲シタルモ然レドモ當時フヱルチナンドセ世
ノ政府ハソノ專ラ殘虐ナル復讐政策ヲ
事トスルノ故ニ由リテ痛ク國民ノ怨嗟ヲ
招キ今俄カニ佛兵ノ占領ヲ撤セムコトハ
固ヨリ得テ望ムベキニアラズ故ニマドリッド
駐在ノ佛國大使タラリユーハ千八百二十四年
二月九日ヲ以テ新タニ西班牙ノ外務大臣オ
フアリアト倶ニ一ノ條約ヲ結ビテ佛軍ハ同
年七月一日ニ至ルマデ半島内ニ駐留スベ
シトナセリ此條約ノ成ルヤ英國政府ハイチ
ユルビードヲ援ケテ墨其西哥ニ帰リテソノ帝
位ヲ回復セシメ次ヒテ西班牙政府ヨリ再
ビ列國會議ヲ開クノ提議ヲ為スヤカンニング
ハ前回ヨリモ一層明白ナル言辭ヲ以テ之
ヲ拒絶シ云フ『英國政府ハ敢テ西班牙政府
ニ對シテ怨ヲ含ミ敵意ヲ表スルガ如キコ
トアラザルモ而モ亦故ラニソノ意ヲ迎ヘ
テ苟モ合ハムコトヲ求メズ唯ダソノ自ラ
適當ナリト思料スル所ニ從フテ事ヲ処ス
ベキノミト』
其後ケ更ニ六月三十日ノ條約ニ依リ佛兵

ノ西班牙ヨリ退去スルノ時期ヲ千八百三十五年一月一日ニ延ハシタル報アルヤカンニングハ之ヲ口実トシテソノ政策ニ一歩ヲ進轉セシメタリ是ヨリ先キリワープールウアルリントン及ビカストレングノ諸氏ハ呂管ヲ頑陋ナル保守昔義ヲ株守シテ痛ク革命ヲ嫌悪シ西班牙殖民地ノ新タニ共和政ヲ建設シタル者ニ對シテ明カニ公認ヲ與ヘ若シクハ此等ノ諸國ト條約ヲ結ビテ公認ヲ與フルニ均シキ待遇ヲ為スコトヲ肯ムセザリシモ千八百二十四年七月ニ至リカンニングハ保守党ヲ誘フラソノ政策ニ同意セシメ仏ルジヤンチーヌ聯邦共和國ト倶ニ通商條約ヲ結ブノ談判ヲ開キ十月ニ至リラ之ヲ結了シ而シテ英國ハ之ガ為メニブラター諸州ニ於テ巨大ノ利益ヲ占ムルコトヲ得タリ英國既ニ新立ノ共和國ト倶ニ通商條約ヲ訂結セリ乃チ之ニ對シテ永クソノ公認ヲ與フルコトヲ躊躇スベキニアラズ加フルニイチユルビードハ墨其西哥ニ於テ戦敗シテ俘囚トナリ聯邦政府ノ命ニ由リテ銃殺ノ刑ニ処セラレタルヲ以テ英國若シ永ク新立ノ共和國ヲ疏外スルトキハ北米合衆國ヲシテ独リソノ勢力ヲ亜米利加ニ專ラニセシムルノ恐ナキニアラズ是ニ於テカンニングハソノ同僚及ビソノ君主ニ説クニ西班牙

領ノ亜米利加諸邦ハ既ニ全ク本國ノ羈絆
ヲ脫シタル者ナルヲ以テ公使ヲ派シテ此
等ノ諸邦ニ駐在セシムルモ一モ累ヲ来ス
コト無ルベキヲ以テセリ是ノ時ニ方リ西
班牙ノ呂ハ亜米利加大陸ノ中ニ於テ僅カ
ニペルーノ一部ヲ占領シタルノミニシテ其
ノ餘ノ地方ハ一モ西班牙ノ政令ニ服從ス
ル者ナク実際全ク独立ヲ為セシ者タルコ
トハ良トニカンニングノ言ヘル所ノ如シ而シ
テ此際更ニ十二月十日ノ條約ニ由リ西班
牙ニ在ル佛國ノ軍兵ハフヲルヂナレドノ為メニ
必要ナル期間即チ之ヲ切ニ言ヘバ永久無
限ニソノ占領ヲ撤セザル可キヲ定メタル

ノ報アリテ益ニ英國ノ君臣ノ決心ヲ促カ
シ終ニ千八百二十五年一月一日ヲ以テカニ
ニングハ倫敦駐在ノ諸外國大使ニ向ヒ西班牙
殖民地ノ獨立ヲ公認シソノ國都ニ代理公
使ヲ派遣シ之ト倶ニ通商條約ヲ締結スベ
キ旨ヲ通牒セリ此ノ事タル風トニ欧洲列
國ノ期待セシ所ニシテ何人モ此ノ報ニ接
シテ驚異ノ念ヲ生スル者ナク而シテ自
餘ノ諸國モ亦皆英米二國ノ例ニ倣ヒテ西
班牙領ノ亜米利加諸邦ノ独立ヲ公認シ其
ノ中或ハ即時ニ公認ヲ與フルコトヲ躊躇
セシ者アリシモ而モ亦能クソノ独立ヲ默
許シテ敢テ異論ヲ唱フル者アラザリキ

事態既ニ此ノ如クナルヲ以テ露帝及ビシヤトーブリアンノ企図セシガ如ク歐洲列國ノ協商ニ由リテ新世界ニ関スル問題ヲ決定センコトハ遂ニ得テ望ムベカラズ且ツシヤトーブリアンノ政策ハ唯ダニカンニングノ妨害スル所トナレルノミナラズ更ニ亦フヱルヂナンド七世ノ妨害スル所トナレリ蓋シフヱルヂナンド七世ハソノ亜米利加ニ於ケル統治權ヲ回復スルコト能ハザルノ事実既ニ已ニ明白ナルニ拘ハラズ固ク執リテソノ殖民地ニ独立ヲ與フルコトヲ拒ミシヤトーブリアンノ考案ノ実行セラルヽヲ欲セズ首相ヴィヱールガ之ト相善カラザルヲ視テ相謀リテシヤトーブリアンヲ排擠シ而シテシヤトーブリアンノ免職ハ亦ソノ亜米利加ニ関スル考案ヲ挫ケラ水泡ニ帰セリ故ニ千八百二十五年ノ始メニ方リ西班牙領亜米利加ハ歐洲列國中孰レノ國ニ對シテモ一モ恐ルヽ所ナクボリヴールノ主唱ニ由リテ総ベテ新立ノ共和國ヲ合シテ一大聯邦トナシ以テ神聖同盟ニ頡抗セムト欲スルニ至レリ

頡頏

若シ西班牙殖民地ノ独立ヲ以テカンニングノ為メニ須要ナリトセバ葡萄牙ノ殖民地中最モ廣大ニシテ最モ富饒ナルブレシルノ如キモ亦必ズソノ注意ヲ惹カザルベカラズ而シテ此方面ニ於テモ亦ソノ婉曲ニシテ

堅忍ナル政策ハ十分ニソノ功ヲ奏スルコト
ヲ得タリ是レヨリ先キドンペドローガブレシルノ
獨立ヲ計ルヤカンニングノ先任カストレーグハ唯
ダソノ為ス所ヲ傍觀シ敢テ之ヲ援ケテソノ
志ヲ遂ケシムルコトアラザリシモカンニング
ハ則チ之ニ反シテラブレジル初代ノ皇帝タル
ドンペドローヲシテ英國ノ保護ニ依頼セシメ
ムト欲シ窃カニ之ニ諸般ノ援助ヲ與ヘテ
葡萄牙ノ軍兵ヲソノ國内ヨリ駆逐シ若シ
クハ新帝國ノ分裂ヲ計レル党派ヲ掃平シ
而シテ千八百二十三年英國ノ海軍中將コリ
ラーヌハ葡萄牙ノ海軍ト戰フテ大ニ之ヲ破
ブリブレジル帝國ハ之ニ由リテ始メテソノ独

立ノ基ヲ開クコトヲ得タリ且ツカンニングハ
ソノ自國内ノ保守党ニ對スルト神聖同盟
ニ對スルトニ論ナクブレジルノ独立ヲ回護
スルニ於テ西班牙領ノ諸共和國ヲ回護ス
ルガ如キ困難ヲ感スルニトアラザリキソ
ノ言ニ云ク『新世界ノ中ニ於テ幸ニシテ獨
リブレジルノミ保守主義ノ制度ヲ存留シ北隣
諸邦ノ專ラ革命ノ精神ニ支配サルヽ者ト
大ニソノ趣ヲ異ニセルヲ以テ之ニ由リテ
能ク勢力ノ均衡ヲ保チ獨リ亜米利加ノ為
メノミナラズ又能ク亞洲列國ノ為メニソ
ノ平和ヲ担保スルヲ得ベシ』ト又カンニングハ
ドンペドローガ革命主義ニ對シテ退讓ヲ為スコ

トナク千八百二十三年十一月ヲ以テソノ稿
激ナル議會ヲ解散シ議會ノ脅迫ニ應シ
テ民主者義ノ憲法ヲ發布スルヲ拒ミ更ニ
ソノ翌千八百二十四年一月ニ至リ自己ノ
自由意思ヲ以テ一ノ憲法ヲソノ臣民ニ賜
與シタルヲ視テ大ニソノ聰明果斷ヲ稱賛
シ而シテ此ノ一事ハ大ニ露帝ノ心ヲ悅バ
シメタリ若シ夫レ墺帝ニ至リテハドン・ペドロー
ト倡ニ親族ノ關係ヲ有スル者ニシテ之ヲ
シテ既ニ冥隆ニ成立セルブレジルノ獨立ヲ
承認セシムルハ其事甚ダ難キニアラズカン
ニングハ又ドン・ペトローガ葡萄牙王位ノ繼承者
タルニ由リ葡萄牙トブレジルトハ未ダ全ク分

離シタル者ト謂フベカラズトナシ以テ列
國ノ物議ヲ杜絶セリ然レドモカンニングノ此
ノ說ハ決シテソノ本心ニ出テタル者ニアラ
ズ何トナレバカンニングハ常ニ葡萄牙ト
ブレジルトノ二國ガ相合スルコトヲ喜ハズ
ソノ保護セルドン・ペドローガ他日葡萄牙ノ王
位ヲ兼ネムトスルニ至ルヲ待チテ更ニ之
ヲ妨害ヲ加ヘムコトヲ企圖シタレバナリ
唯ダ夫レ當時ニ在リテハ英國ノ爲メニ最
モ須要ナルハ葡萄牙ヲシテ先ツブレジルノ獨
立ヲ公認セシムルニ在リ然リ而シテ英國
ハ一世紀以來葡萄牙ニ對シテ極メテ強大
ナル勢力ヲ占有シ由リテ以テソノ政治上

擁

及ビ高業上ニ稗益ヲ與フルコトナラザ
ルヲ以テ之ト倶ニ紛爭ヲ搆フルハ
策ノ得タル者ニアラズ宜シク穏カニ之ヲ
勸誘シテソノ公認ヲ與ヘシメザルベカラス
然ルニ英國ガ葡萄牙ニ於テ保有シタル勢力
カハ千八百二十年ヨリ千八百二十三年ニ亘
リ同國ニ於テ議會ノ全權ヲ有シタル間稍
〻衰退ヲ來シタルヲ以テ英國政府ハ葡萄
牙ニ於テモ亦猶ホ西班牙ニ於ケルガゴト
ク皆テソノ憲法政府ヲ擁護スルヲ欲セズ
既ニシテ千八百二十三年同國ガ再ビ專制
政治ニ復シタルノヤ國王ジヤン六世ハ英國
ニ對シテ頗ル好意ヲ表スルニ至リタルモ

疑

王ハ年老ヒテソノ心志懦弱ニシテ決斷ニ
乏シクソノ英國ニ向テ好意ヲ表スルト倶
ニ亦佛國ノ疑心ヲ得ムコトヲ求メ而シテ
ソノ國内ニ於テハ革命党ノ氣燄今猶ホ甚
ダ熾ムニシテ再ビ起リテ政府ヲ顛覆セム
ト欲シ加フルニ旧教党ノ頑冥固陋ナル類
リニ王ノ為ス所ノ温和ニ過キタルヲ怨メ
王妃カルロタ及ビ淺識無智ニシテ而モソノ
性質ハ殘忍酷虐野心甚ダ熾ムナル第二ノ
王子ドンミゲールノ使嗾ヲ受ケ此ノ年少王子
ヲ奉シテ王位ニ即カシメムト欲シ之レガ
為メニ暴擊ヲ行ヒ罪惡ヲ犯スルモ殆ムト
顧ミル所ナク千八百二十四年二月ニハ宰

相ルーレー公ヲ暗殺シ同年五月ニハ王ヲ捕
エテ之ヲ幽閉シ以テソノ位ヲ王子ドン、ミゲ
ールニ譲ラムコトヲ迫リ諸國ノ外交官就中
英佛両國ノ大使ノ嚴談ニ由リテ王ハ終カ
ニ其ノ幽閉ヲ免ルヽコトヲ得タリ次ヰデ
ドン、ミゲールモ亦捕ハレテソノ罪ニ服シ墺地
利ニ追放セラレシガ他日再ビソノ國ニ帰
ルニ及ビテ葡萄牙ノ為メニ一大不幸ヲ招
致シタリ

英國大使ガ佛國大使ト倶ニカヲ極メテドン、
ミゲールヲ排斥セシハ蓋シドン、ミゲールガブレジル
ト葡萄牙トノ間ヲ和解スルヲ欲セザルガ為
メニシテジヤンニ世ガ既ニソノ幽閉ヲ免レ

タル後チハ更ニ佛國大使ヒドド、ヌーヴイールト
倶ニ大ニソノ勢力ヲ争ヘリ蓋シヒード、ド、ヌー
ヴイールハ人ト為リ剛毅ニシテ權略ニ富ミ深
ク葡萄牙王ノ信用ヲ得動モスレバドン、ペドロー
ニ関スル英國ノ企図ニ妨害スルノ恐アリ
シガ故ナリ是ヨリ以降二ケ月間ハリスボーヌ
駐劄ノ英佛両大使ノ間ニ激烈ナル抗争ヲ
生シヒード、ド、ヌーヴイールハ葡萄牙トブレジルト
ノ媾和ヲ計ルガ為メ從来倫敦ニ於テ開始
シタル談判ヲ巴里ニ移シ仍テ佛國政府ノ
斡旋ヲ以テ專ラ君位正統論ニ本キテソノ
談判ヲ決セムト欲シ葡萄牙ノ大臣中ニハ
パンプロナー伯ヲ首メソノ説ニ同意スル者ナ

キニアラザリシモパルメラ公及ビソノ他ノ大臣ハ英國政府ノ説ヲ容レテ倫敦ニ於テ談判ヲ繰續シ英王ジヨールジ二世ノ仲裁ニ從ヒ新帝國ニ独立ノ公認ヲ與ヘムコトヲ主張セリ既ニシテ幾多ノ秘計陰謀ノ後チ佛國大使ハジヤン王ノ恐怖ニ乘シ當時西班牙ニ屯在セル佛兵ノ一部ヲ葡萄牙ニ招キテ之ヲ保護セムコトヲ稟議セリ英國政府ハ此ノ報ヲ得テ大ニ驚キカンニングハ斯シテ此ノ如キ干渉ヲ許スコト能ハズトナシ已ムナクムバ兵力ヲ用ヰテ之ニ反對スベシト揚言シ從來リスボーヌノ港内ニ碇泊シテジヤン六世ヲ保護セル英國ノ軍艦ヲ召喚スベキ

ヲ告ケテ之ヲ脅迫セリ是ニ於テジヤン六世ハ英國政府ノ威風ニ恐レテ佛國大使ノ説ヲ擯ケヒード、ドヌーウイールハソノ本國ニ召喚セラレポンプロナーハソノ職ヲ罷メラレパルメラー独リ全權ヲ握リ千八百二十五年一月ブレジル問題ヲ協定スルガ為メニ倫敦ニ派遣セラレタリ

是ヨリ後チブレジル問題ハ総ベテカンニングノ意ノ如クナラザルハナク英國政府ハ葡萄牙トブレジルトノ間ニ立チテ仲裁ノ任ニ當リ英國ノ外交官チャールスズチユアルトナル者リスボーヌニ派遣セラレタル五月十三日ジヤン六世ヨリソノブレジルノ領有權ヲ長子ドンペ

ドローニ譲與スルノ宣旨ヲ受ケテ更ニリカドー
ジヤ子ローニ赴キ八月二十九日葡萄牙政府
ト其殖民地タリシブレジル帝國トノ間ニ一ノ
條約ヲ訂結シ同年末ニ至リ歐洲列國ハ皆
齊シクブレジルノ獨立ニ公認ヲ與ヘタリ但ダ
ドン、ペドローハ尚ホ其ノ父ニ継キテ葡萄牙ノ
王位ニ即クノ權利アルヤ否ヤノ問題ハ之
ヲ曖昧ニ付シ去リテ決スル所アラザリシ
モ同時ニ数多ノ困難ニ當ルコトヲ避ケ先
ツ一ノ困難ヲ除キタルノチ更ニ他ノ困難
ニ移ルハカンニングノ長所ニシテ徒ラニソノ
困難ヲ恐レテ逡巡躊躇シタルニアラズ
今ヤカンニングハ新タニ起リタル自由貿易說

ニ由リテ未曾有ノ發達ヲ為セル英國ノ高
業ノ為メニ亜米利加ニ於テ廣大ノ販路ヲ
開拓セリ是レソノ功ハ小ナリト謂フ可ラズ
而シテ彼レハ更ニ数年ナラズシテ英國ノ
為メニソノ政治上ノ關係ヲ廣クシテ以テ大
ニソノ勢力ヲ進張シ殆ニ近世大革命ノ
產兒タル自由制度ヲ諸國ニ定立シテ神聖
同盟ニ一大打擊ヲ與ヘタリ而モソノ為ス
所ハ亦未ダ之ニ止マラザリキ

其四　希臘ニ對スル英國ノ好情

カンニングハ千八百二十二年以來亜米利加諸
邦ノ独立ヲ公認スルニ決シ而シテソノ企
図ノ実行ヲ遵疑スルコト三年ノ久シキニ

及ベル者ハ是レソノ故何ゾヤ蓋シカンニング
ハソノ意志極メテ堅剛ナルト同時ニソノ
思慮亦極メテ慎重ナル者ニシテ千八百二十
四年ノ末ニ至ルマデ或ハ露帝ガ英國ノ新
世界ニ干渉セルヲ視テソノ例ニ倣フノ辭
柄ヲ設ケ自ラ希臘ノ事ニ干渉シテ由リテ
以テソノ勢力ヲ東欧ニ專ニセムコトヲ恐
レタルナリ然レドモ此ノ間ニ於テカンニング
ハ英國ノ政策ヲ一變シ唯ダニ亜米利加ノ
ミナラズ東欧ニ於テモ亦自ラソノ地位ノ
主人公トナリ以テソノ革命ヲ利用シテ自
國ノ勢力ヲ進張スルノ機會ニ達シタルヲ
以テ露國ニ對シテ復タ深ク恐ヲ抱クコト

アラザリキ試ミニカンニングガ土耳格及ビ
希臘ニ對スル政策ヲ詳說セムニ彼レハソ
ノ先輩カストレーグ及ビピットト均シク土
耳格帝國ノ存立ヲ保ツニ最モソノ力ヲ尽
シテ生涯渝ルコトナク常ニ土廷ニ說クニ
露國ニ對スル土廷ノ保護者ハ英國ニ外ナ
ラザルヲ以テ而シテ之ト同時ニ他方ニハ
希臘ノ叛徒ニ對シテソノ前任者ノ執レ
ル方鍼ヲ一變セリ是ヨリ先キ希臘ノ叛徒
ハ千八百二十二年ノ末ニ至リ孤立援ナク
シテ一時殆ト支フ可ラザルニ至リシモ毫モ
ソノ氣力ヲ沮喪スルコトナク大ニ土耳格
ノ兵ヲドラマリーニ破リ亞洲列國ハ皆深ク

ソノ元氣ノ熾ナルニ感激シ革命軍ノ全勝
ヲ應ニ近キニ在ルベキヲ信スルニ至レリ
夫レ此ノ如ク叢萬タル一小邦ノ人民ニシ
テソノ政府ノ狀況ヲ目シ而
シテ尚ホ能ク土耳格ノ大兵ニ抗シテ屈ス
ルコトナキハ是レソノ人民ハソノ力能ク自
由ノ權利ヲ克復シ又且ツ永ク之ヲ抱持スル
ニ足ルベキモノト謂ハザル可ラズ乃チ希臘
ノ独立ハ何カニ之ヲ止メムト欲スルモ終ニ
得テ止ムベカラザル者ナリ既ニ然ラバ
希臘國民ヲシテ英國ノ助手タル露國ノ援
ニ由リテソノ独立ヲ遂ルコトヲ得セシムルハ
是レ固ヨリ英國ノ利トスル所ニアラズ

故ニ英國ハ希臘ノ独立ノ得テ止ムベカラ
ザルヲ視ルヤ自ラ進ミテソノ運動ヲ指導
シ由リテ以テ露國ノ機先ヲ制シ由リテ以
テ土耳格帝國ノ滅亡ヲ救ハムコトヲ計シ
リ
此ノ如ク英國ノ政策ニ變動ヲ來シタルハ
必ズシモカンニングノ意中ヨリ出デタルニ
アラズシテ亦実ニ議院並ニ國民ノ輿論ヨ
リ出デタル者ナリ始メ英國人ハ冷眼ヲ以
テ希臘ノ革命ヲ看過シ絶エテ之ヲ意ニ介
スルコトアラザリシモ久シカラズシテ大
ニ之ニ同情ヲ表スルニ至リ加フルニ英國
ノ資本家等ハ希臘ヲ援ケテソノ独立トメ

ノ繁栄トヲ得セシムルノ唯ダニソノ國ノ
栄誉タル又ソノ利益タル所以ヲ悟リ以為
ヘラク若シ英國ノ資本主ニシテソノ資本
ヲ希臘ニ投下スルヲ遅疑セバ必ス佛國銀
行家ノ先ムスル所ナラムト是ヨリ先キ佛國
ニ於テハリシユリー内閣ノ時ニ大ニ希臘ノ
革命ニ同情ヲ表セシガヴイエール内閣ニ至リ
テ一時ソノ同情頗ル冷却セルノ趣アリシ
モ千八百二十三年ニ至リテ更ニ大ニソノ
熱度ヲ加ヘ國中到ル処ニ委員會ヲ設ケ軍
器糧餉資金ヲ贈與シ若クハ義勇兵ヲ編成
シテ希臘ニ派遣スル等諸政党総ヘテ一轍
ニ出テ守旧党ハ希臘ノ独立ヲ以テ基督教

徒ガ異教ノ衡軛ヲ免ルヽ所以ナリトナシ
自由党ハ之ヲ以テ革命主義ヲ弘布スル所
以ナリトナシ二者均シク非常ノ熱心ヲ以
テ希臘ノ再興ヲ勸迎シヴエローヌ會議ノ後チ
希臘叛軍ノ首領メタキサスノ使者ジユールダンナ
ル者巴里ニ来リテ希臘政府ノ為メニ公債
ノ募集ニ着手セリ是ニ於テ英國人ハ自國
ニ於テ此ノ公債ヲ募集セシムルヲ必要ナ
リト為シ且ツ當時佛國ニテハソノ王族
ノ一人スムール公ヲ以テ希臘王ト為サムコト
ヲ計シルノ説アリ英國ハ佛國ニ對シテ機
先ヲ制セムト欲シ卒ニ起チテ希臘ノ独立
ヲ援助スルノ政策ヲ執ルニ至レリ

是ヨリ先キヴヱローヌ會議ノ開會中カンニングガ希臘問題ニ關シテ務メテ持重ヲ旨トシタルハ蓋シソノ一ハ神聖同盟ニ由リテ希臘ノ運命ヲ決スルコトヲ欲セザルトソノ二ハ當時英國ハ專ラソノ眼ヲ西班牙問題ニ注キ更ニ東亞ニ於テ事ヲ構フルノ餘地ヲ有セザリシニ在リ然レドモ千八百二十三年ノ始メヨリカンニングハ頓ニソノ希臘叛徒ニ對スル態度ヲ一變シ嘗テ叛徒ヲ視レバ直チニ砲門ヲ開キテ之ヲ擊攘スルヲ憚カラザリシイオニヤ群島ノ知事ハ今ヤ却テ叛徒ヲ援護シ希臘革命軍ノ首領ハ屢々英國ノ密使ト會見シテ相倡ニ高議スル所ヤ

影

リ當時希臘ニ於テ俊秀ノ外交家ヲ以テ目セラレタルマルボコルダトーノ如キハ就中ソノ最モナル者ニシテ希臘ノ安危ハ一ニ英國政府ノ意向ニ係レリト思料シ英國政府ハ當時希臘政府ガ希臘及ビ土耳格ノ沿岸ニ行ヘル封港ニ對シ事實ニ於テ承認ヲ與ヘエヂンブルクニ倫敦ニ其他國内列ル処ニ公然委員ヲ設ケテ希臘ノ叛徒ニ夥シク軍資ヲ供給スルヲ見ルモ措キテ之ヲ問フコトナク大佐シャンホップガミソロンギー市ニ赴キテ希臘ノ軍ニ投スルヲ許シバイロン卿ガコルフーニ到リテ義勇團ヲ編制シ更ニ之ヲ率ヒテ亦均シクミソロンギー市ニ赴クヲ許シ千八

百二十四年一月ニ至リ希臘政府ハ倫敦ニ於テ八十万磅ノ借入ヲ為スノ契約ヲ結ビ希臘人ハ英國ヲ以テ真実ニ自國ヲ援護スル唯一ノ邦國ナリト信依スルニ至リ憶フニ希臘人ノ英國ヲ信スル頗ル過大ニ失スルノ嫌ナキニアラザルモ而モ當時彼等ガ内部ノ不和ノ為メニ動モスレバ内乱ヲ惹起スルノ患アリテ拘ハラズ能ク土耳格ノ大兵ニ抗シテ連リニ勝ヲ奏スルコトヲ得タルハ主トシテ西欧ノ應援ヲ得タルニ由レル者ニシテ之ガ為メ彼等ハ復タ援ヲ露國ニ仰グコトアラザリキ然ラバ露帝ハ此際ニ於テ何カニ之ニ処セムト欲スル

乎帝ハ前日ニ至ルマデ百方手段ヲ尽クシテソノ独立ヲ鼓舞奨励シタル希臘國民ヲ抛棄シテ永ク之ヲ顧ミルコト無ラムト欲スルカ否ナ決シテ然ラサルベシ然レドモ帝ノ不決断ハ其ノ黠ノ長ズルト倶ニ益ニ太甚シキヲ加ヘ希臘ノ独立ヲ援クルガ為メニ神聖同盟ノ存立ヲ危クスルヲ欲セズ加フルニソノ革命旨義ヲ嫌悪スルノ甚シキソノメテルニツチノ詭計ニ飜弄セラレテ悟ルコトヲ知ラザルソノ身ヲ終ルマデ往ラニ孤疑躊躇シテ遂ニ断然タル措置ニ出ツルコト能ハザリキ

露帝ハヴェロー又會議ニ於テ其ノ意ノ欲ス

ルガマヽニ西班牙問題ヲ決定シ而シテ更
ニ他日ヲ待チテソノ東欧ニ對スル企図ヲ
実行スルノ機會ヲ得ムト欲シ當時シユヱーヴ
ニ逃避シタルカポー、ヂストリアト屢々信書ヲ
往復シカポー、ヂストリアハ遠カニ帝ニ策ヲ献
シソノ土耳格帝國ヲ滅絶スルノ素志ヲ
抛擲スルナカラムコトヲ勸告セリ然レド
モ帝ハ務メテ忍耐持重シテ容ロニ事ヲ計
ルヲ須要ナリト思科シ佛國ガ西班牙ヲ征
討スル間ニハ帝ハソノ嘗テ千八百二十二
年九月二十六日、十一月九日及ビ同月二十
七日ノ公文ニ示シタル所ニ從フテ土耳格
政府ト倶ニ急ニ協定ヲ遂ゲルノ意ナリ從

再

フテ帝ノ要求ニ関スル談判ハ英墺ノ二國
ガ百方ソノ間ニ周旋シテ以テ速カニ之ヲ
結了センコトヲ計リタルニ係ラズソノ後
一年ヲ経テ尚ホ未ダ決スルコト能ハズ是
ニ於テ英墺二國ハ先ツ露國ヲシテ再ビソ
ノ全權大使ヲ君士坦丁堡ニ駐劄セシメム
コトヲ計シリ他ナシ之ニ由リテ露土二國
ノ交誼回ニ復シタルヲ表彰スルハ是レ露
帝ガ世界ニ向フテ自ラソノ從来ノ政策ヲ
非認シ以テソノ希望ニ對スル勢力ヲ失墜
スル所以ナレバナリ然レドモ露帝ハ英墺
二國ノ計略ヲ悟リメノ希望ニ於ケル信用
ヲ維持シテ失フコトヲ勿ラムト欲シ欧洲列

國ノ眼前ニ於テ明白ニ東部問題ヲ決定シ
タル後チニアラズムバソノ全權大使ヲ君
士坦丁堡ニ派遣スルヲ欲セズ而シテ是レ
適〻英墺二國ノ為スヲ欲セザル所ナリト
ス若シ夫レ土耳格政府ニ至リテハ再ビソ
ノ國都ニ露國大使ヲ駐留セシムルノ利ナ
ル所以ヲ悟ラザルニアラザルモソノ一タ
ビ露國ノ要求ヲ容ルヽノ後チ更ニ露帝ヨ
リ希臘ノ要求ヲ容ルベキヲ迫ラレムコト
ヲ恐レテ亦急ニソノ露國トノ談判ヲ終ル
コトヲ望マズ千八百二十三年二月下旬ニ
至リテ辛フシテソノ新タニモルダヴイー及ビ
ワラシーノ知事ヲ任命シタルコトヲ露帝

ニ通知スルマトヲ諾シ而シテ更ニ高業亞
ニ關スル露帝ノ要求ニ就キテハ同年末ニ
至ルマデソノ回答ヲ延バシ且ツ露帝ノ屢〻
督促セルダニューブ河岸諸公領地ノ占領ヲ撤
回スル時期ヲ延バシ以テソノ露國トノ協
商ヲ確定スルナカラムマトヲ欲シタリ
然レドモ此ノ間ニ於テ西班牙ノ戰爭既ニ
終リヲ告ケタルヲ以テ露帝ハ歐洲列國共
同シテ希臘ノ叛亂ヲ鎮定スルノ策ヲ按シ
先ツ墺帝ト會見シテ此ノ事ニ關スル方案
ヲ商議セムト欲シ千八百二十三年十月露
墺ノ二帝ハクゼルノウイツニ會見シ而シテ之
ト同時ニ露相子ツセルロードハ當時病ニテシ

ベルグニ在リシメテルニツチヲ訪フテ亦同一ノ
事件ヲ商議セリ
此ノ會見ニ由リテ英墺ノ二國ハ常ニ君士
坦丁堡ニ於テ露土二國ノ間ヲ調停スルノ
任ニ當リ而シテ他方ニハ聖彼得堡ニ於テ
五大強國ノ會議ヲ開キ以テ東歐ノ平和ヲ
回復スルノ方法ヲ協定スルニ決定セシガ
此ノ方案モ亦メテルニツチノ詐謀ヨリ出テシ
者ニシテ彼レハ常ニ露帝ヲ以テ大ナル小
兒トナシ之ヲ誘ニ就カシムルハ務メ
テソノ意ニ侵入ル(佞)ニ若カザルヲ察シ以為
ラクソノ意思變動定リナキ露帝ニ對シ正
面ヨリ之ヲ排擊セムトスルモ一モ得ル所

ナカルベク若カシ陽ハニ之ト事ヲ俱ニス
ルノ風ヲ裝ヒ之ヲ援ケテソノ志ス所ヲ遂
ケシムル為ヲシテ却テ之ヲ沮止スルノ計
ニ出デムニハシカト蓋シメテルニツチノ最モ須要
ナリト為セル所ハ當時ニ於テモ亦猶ホ此
ノ事變ノ始メニ於ケルガ如ク露帝ヲ翻弄
シテソノ時期ヲ遷延セシムルニ在リ是ノ
時ニ方リ墺國政府ハ埃及王メヘメッリーガ
新タニ四隣ヲ征伏シテソノ勢ヒ頗ル強大
ナルヲ視テ密カニ土耳格帝ニ説クニ埃及
ノ力ヲ假リテ帝曦ノ致徒ヲ征討スベキヲ
以テシタルニ土耳格帝ハソノ藩屬タル埃
及王ガ近時傾ニソノ勢力ヲ得テ倨傲不遜

ノ態アルヲ視テ頗ル猜忌ノ念ヲ抱キ今又之ニ向フテソノ援助ヲ求メ以テソノ勢力ヲ長ズルコトヲ好マズト雖ドモ而モ事勢ノ必要ニ迫ラレテ遂ニ墺國政府ノ勸告ヲ容ルヽニ決シ千八百二十四年ノ始ニ至リ土耳格、埃及ノ両國間ニ合同ノ約ヲ結ベリ憶フニ此ノ如クシテ更ニ二ケ月ヲ経タラムニハ希臘ノ革命軍ハ一敗地ニ塗レテ復タ起ツコト能ハザルベキナリ且ツメテルニッチハ露帝ノ提議ニ係ル列國會議ハ英國ノ故障ノ為メニ大ニソノ開會ノ期ヲ遷延シ而シテソノ既ニ開會シタルノチモ亦均シク英國ノ妨害ニ由リテソノ議事久シク決セザルベキヲ量リ以為ヘラク此ノ如クナルトキハソノ露國ト倶ニ協定セル政策ノ失敗ヲ以テ責ヲ英國ニ嫁スルコトヲ得ベク而シテ其ノ間希臘ノ革命軍ハ土、埃連合軍ノ撃破スル所トナリ露國ハ復タ希臘人ノ為メニソノ独立ヲ要求スルニ由ナカルベク是ニ至リテソノ策策セル戲劇ハ全クソノ功ヲ奏スベキナリト

英國政府ハ其ムシテルメテルニッチニ誑惑セラレタル風ヲ装ヒ列國會議ヲ開クニ先ツテ露國ガ預シメ希臘ノ改造ニ関スル意見ヲ提供セムコトヲ要求セリ此ノ要求タルヤ蓋シ亦陷穽ヲ設ケテ露帝ヲ陷シムト計リ

タル者ナリ然ルニ露帝ノ浅慮ナル之ヲ悟ルコト能ハズシテ千八百二十四年一月秘密文書ヲ送リテ露國ノ意見ハ當時叛乱ヲ起シタル希臘ノ土地ヲ西部希臘、東部希臘及ビモレーノ三部ニ分チ名部皆土耳格ニ隷屬セル公領地トナスコト恰モモルダヴイー及ビヴラシーノ如クナラシムルニ在ルコトヲ告ケリ然ルニ此ノ文書ハ數月ヲ出ラスシテ世ニ公ニセラレ而シテ土帝ハソノ叛亂セル臣民ノ全ク服從ヲ表セムコトヲ欲シ希臘國民ハ初メヨリ分割又ハ隷屬ヲ欲スル者ニアラザルガ故ニ二者齊シク露帝ノ提議ニ對シテ痛ク激昂ノ怒ヲ発シタリ

顧フニ露帝ハ之ニ由リテ自ラソノ利己心ヲ表示シタル者ニシテ露國政府ノ目的ハ專ラ土耳格帝國ヲ覆滅スルニ存シ而シテ敢テバルカン半島ニ於テ自國ノ保護ニ由ラズシテ力能ク自ラ支フルニ足ルベキ獨立國ノ存スルコトヲ望マザルハソノ提議ニ就キテ歴々徴スルヲ得ベク當時英國ノ外交官ガ此ノ如キ文書ヲ手ニシテ君士坦丁堡及ビ希臘ノ國都ノープリーニ於テ何カニソノ外交術ヲ振フコトヲ得タルハ問ハスシテ知ルベキナリ

且ツ列國會議開設ノ問題ハ露國政府カ希臘ノ改造ニ関セル意見ヲ提供セルガ為メ

ニ必ズシモソノ歩ヲ進ムルコトナク英墺
ノ二國ハ列國會議ノ開會ニ先チテ露國ガ
ソノ全權大使ヲ君士坦丁堡ニ派遣セムコ
トヲ主張シ他方ニ於テハ土耳格政府ハダニ
ユーブ沿岸ノ公領地ノ占領ヲ撤スルヲ肯ム
セスシテ百方詭辯曲論ヲ唱ヘテ露國ノ要
求ニ反對シ五月下旬ニ至リ辛フシテソノ
要求ノ一部ヲ容ルヽコトヲ諾シタリ是ニ
於テ露帝ハ直チニ君士坦丁堡駐劄ノ全權
大使ヲ任命スベキヲ先ガケシ次ヰデ更ニ列國
會議ノ開會ヲ報ジ五大國共同シテ土耳格
希臘ノ間ニ休戰ヲ命シ以テソノ紛議ヲ調
停セムコトヲ主張シタルニ露都ニ駐在セ

ル五大國ノ全權大使ハ露帝ノ此ノ提議ニ
對シ各ヽソノ本國政府ノ訓令ヲ仰クノ必
要アル旨ヲ回答セリ露帝ハ之ヲ視テソノ
故ラニ時期ヲ遷延セムトスルノ計ニ出ラ
タルヲ察シ若シ更ニ讓歩スル所アラズム
バ一モ得ル所ナカルベキヲ悟リ八月二十
八日ノ公文ヲ以テラド、リボーピアールヲ君士坦
丁堡駐劄ノ全權大使ニ任シタル旨ヲ列國
ニ通知シタリ然レドモ帝ハ猶ホ狐疑シテ
決スル所ナクドリボーピアールノ任地ニ赴ク
ヲ止メテ以テ事局ノ變ヲ待テリ
露帝ハ此ノ半讓半拒ノ措置ニ由リテ能ク
英墺二國ノ讙心ヲ得ルニ足ルベシト思科

セリ然レドモ當時希臘ノ危急漸ク迫シル
ニ從ヒ列國會議ニ由リテ東邦問題ヲ協定
セムト欲スル露帝ノ意見ハ愈〻ソノ実行
ヲ遷延スルニ至シリ是ヨリ先キメヘメッタリー
ノ子イブラヒンパシヤハ大兵ヲ列サテ埃及
ヲ発シソノモシ二上陸スル近キニアリ而
シテ希臘ハ党派ノ分裂ニ由リテ内乱ヲ生
シ固ヨリ永クイブラヒンノ軍ニ抗スルコトヲ
得ベキニアラズ故ニ希臘人ハ大ニ之ヲ憂懼
シ諸強國ノ中ニ就キ能クソノ危急ヲ救フラ
而シテソノ報酬ヲ求ムルコト少キ者ニ向
フラソノ援ヲ得ムコトヲ求メ英佛ノ二國
ニ最モソノ望ヲ繫キ一時ハ佛國ノヌムール

公ヲ奉シテ希臘ノ王位ニ即カシムルノ説殆
ムト將ニ実行セラレムトスルノ勢アリキ
是ニ於テ英國政府ハ明カニソノ希臘ヲ援
ルノ決意ヲ示シテ以テ佛國ノ先ヲ制セム
ト欲シ而シテ露國ガ希臘ヲ三分スルノ意
見ハ千八百二十四年六月ニ至リテ世上ニ
發露シタルガ為メ希臘政府ハソノ年ノ八
月ヲ以テ特ニ英國政府ニ向ッテ斷シテ露
國ノ意見ヲ容ルヽコト能ハザル旨ヲ報シ
ソノ十一月カンニングハ公然之ニ答フルニ若
シ希臘ニシテ英國ノ仲裁ヲ仰クヲ必要ナ
リトセバ英國政府ハ敢テソノ任ニ膺ル辞
セサルベキヲ以テセリ今之シ希臘政府ト

倶ニ公然交渉ヲ開クハ其ノ実独立ノ一國トシテ土耳格ト交戰セル者タルコトヲ公認スルト同一ノ効力ヲ有スル者ニシテ是ノ時ニ至ルマデ何レノ邦國ト雖ドモ敢テ此ノ如キ措置ニ出デシ者ナクソノ之レアルハ実ニ英國ヲ以テ嚆矢トナス而シテカンニングハ之ト同時ニ露國政府ニ向ヒソノ從弟ニシテ曩キニ列國會議ニ列スルノ命ヲ受ケタルストラットフオルド、カンニングヲ聖彼得堡ニ送ルベキモ而モソノ用務ハ列國會議ニ參列スルガ為ニアラズシテ唯ダ北来ニ於ケル些少ノ紛議ニ就キテ露國政府ニ談判ヲ試ミナルコトヲ告ゲ且ツ書ヲ露政府ニ致シテ云ク『露帝ノ提議ニ係ル希臘鎮定ノ方案ニ拠ルトキハ土耳格希臘ノ二國育シク列國共同ノ仲裁ヲ拒作スルコト必然疑ヲ容レズ故ニ若シ二國ヲシテ必ラズソノ仲裁ヲ容レシメムト欲セバ勢ヒ力ヲ以テ之ヲ強制セザルベカラズ而シテ是レ英國政府ノ為スヲ欲スル所ニアラズ故ニ英國政府ハ列國會議ニ參列スルコトナク東政問題ニ就キテハ全クソノ行動ノ自由ヲ保有セムト欲ス』

其五　聖彼得堡會議及ビ露帝ノ崩殂

千八百二十四年十二月露帝ハ右ニ述ベタ

ル英國ノ通牒ニ接シラソノ始メ大ニ激怒シ帝膓事件ニ就キテ再ビ英國政府ニ交渉スルコトナカルベキヲ宣言シソノ翌千八百二十五年一月聖彼得堡ニ達シタルストラットフオルド、カンニングヲ接見スルコトナカラムト欲シタリ然レドモ墺相メテルニッチハ復タ又ソノ慣用手段ヲ施シ陽ハニ露帝ヲ接クルノ状ヲ粧フテ之ト倶ニ自ラ爭鬩ヲ事トスルコトナク而シテ陰ニソノ政策ヲ妨害セムト欲シタルヲ以テ英國政府ニ勸メテ列國會議ニ參列セシメ仍ラソノ預メ図謀シタル露帝ノ政策失敗ノ責ヲ之ニ推委セムコトヲ計リ蓋シ英國政府ニシテ遂ニ列國會議ニ列スルコトナクムバ墺國ハ露帝ノ提議ニ對シ面ノアタリ異議ヲ唱ヘザルベカラズ此ノ如クナルトキハ露帝ハ必ラズソノ提議ノ破レタルヲ以テ責ヲ墺國ニ帰スベク而シテ墺國政府ガソノ始メ露帝ノ提議ニ同意ヲ表スルガ如キ色ヲ示シ之ヲ援ケテソノ政策ヲ成就セシムルノ意ヲ表シタルガ為ソ露帝ノ墺國ヲ怨ムルコト一層太甚シキヲ加ヘザルベカラズ且ツ此ノ如クシテメテルニッチヲシテ隙ヲ露帝ニ開カシムルハ亦実ニカンニングノ希望スル所タリシナリ抑モカンニングトメテルニッチトハ其ノ氣質性情相容ルヽコト能ハズシテ常ニ

相忌ミ相猜ミテ相陷レムト欲シメテルニツケ
ハ屢〻英王ジヨールジユ四世及ビリヴープールウ
エルリントン等ニ向ヒカンニングヲ讒シテ欧洲
全土ヲ火厭ノ中ニ投セント欲スル悪魔ナ
リトナシ而シテカンニングモ亦常ニメテルニツケ
ヲ以テ文明社會ニ他ノ比類ヲ見ザル
狡獪奸悪ノ人物ナリト稱セリ二人ノ相善
カラザルコト既ニ此ノ如シ乃チカンニングガ
メテルニツケヲシテ唯ダニツノ秘計ヲ謀設セ
シムルノミナラズ又且ツ欧洲列國ノ環視ス
ル所ニ於テ面ノアタリ之ヲ欺弄シ以テ自
シ快トセムト欲スルハ蓋シ亦故ナキニアア
ラズ

墺國ハソノ始メ專ラ露帝ノ謹心ヲ得ムト
欲シテ列國會議ノ開會ヲ促ガシタルヲ
以テ今ニ至リテ固ヨリ其ノ開會ヲ拒ム
コト能ハズ故ニ千八百二十五年二月ヨリ同
年四月ニ至ルマデ聖彼得壁ニ於テ終ニ列
國會議ヲ開ケリ然レドモソノ會議ノ結
果一モ見ルベキモノナキハ何人ト雖トモ逆メ
之ヲ知ルコトヲ得ベク露國ハ開會ノ始メ
ヨリ土耳格及ビ希臘ニ向フテ休戰ヲ求
メ之ヲ諭スニ列國共同ノ仲裁ヲ仰クベ
キヲ以テシニ國若シ拒ミテ之ヲ容レザル
トキハ之ニ對シテ更ニ協同強制ノ手段ニ
出ツベキヲ主張セリ是レ神聖同盟ヲシテ

バルカン半島ニ干渉ヲ加ヘシメムトス
ルコト宛モ往年伊太利及ビ西班牙ニ於テ
シタルガ如クナリシテ露國自ラ其ノ方策ヲ
実行スルノ任ニ當ラムト欲スル者ナリ憶フ
ニ列國ハ何ヲ以テ露帝ノ此ノ提議ニ答ヘ
ムト欲スルカ當時同盟諸國ノ中ニ就キテ佛
國ガ露國ノ説ニ協賛スルヲ欲セザルハ露帝モ
亦能ク之ヲ知シリ是レ他ナシ夙トニ露帝ノ
政策ニ同意ヲ表シタルシャトープリアンハ数月
以前ニ既ニソノ外務大臣ノ職ヲ罷メラレ而
シテ首相ヴィエールハ路易十八世崩シテシヤ
ル、十世代リテ王位ニ即キタル後モ亦尚ホ
ソノ職ニ留マリテ敢テ英國ト倶ニ不和ヲ

構フルコトヲ欲セザルノミナラズ佛國若シ
交ヲ土耳格ニ絶ツトキハソノ多年埃及王
メヘメッタリーニ對シテ保有シタル勢力ヲ失
フノ恐アルガ故ナリ故ニ露帝ハヴィエール
ガ敢テ自ラ進ミテ帝ノ提案ニ賛成スル
コトナク墺國政府ノ答ヘヲ待チテソノ
進退ヲ決セムト欲スル者タルコトヲ科知セ
リ將タ伯林政府ニ至リテハ終始墺國ニ
伴隨シテ離レ、コト能ハザル者、ソノ佛國
ニ怕シキ態度ニ出ツルハ固ヨリ疑ヲ容ル
ベキニアラズ故ヲ以テ露帝ハ專ラ墺國政
府ガソノ提案ニ協賛ヲ與ヘムコトヲ希望
シ若シソノ反對ヲ受クルトキハ自己ノ政

筆ハ全ク水泡ニ帰スベキヲ案シテ深ク之
ヲ憂懼シタリ然ルニ聖彼得堡駐劄ノ墺
國全權大使レブゼルテルシハ墺國政府ガ露帝
ノ提議ニ係ル協同強制ノ方案ニ同意スル
コト能ハザルヲ答ヘ而シテ露國ノ全權委
員ガ固ク執リテ之ノ説ヲ變セザルヲ見ル
ヤ墺國大使ハ協同強制ヲ加フベキ唯一ノ
手段ハ直チニ希臘ノ獨立ヲ公認スルノ外
ナキヲ主張セリ蓋シ墺國ハ初メヨリ露帝
ノ此ノ如キ決定ヲ為スコトヲ欲セザルヲ料
知シテ故ラニ此ノ方案ヲ提出シ由リテ以テ
露國ノ政策ヲ阻碍スルノ計ニ出ヅタリ
シナリ要スルニ會議ハソノ高議談判ニ

六週間ヲ費ヤセル後チ墺國政府ノ調停ニ
由リテ千八百二十五年四月七日一ノ議定
書ヲ作リ會盟列國ヲシテ單ニ下記ノ事項
ヲ約セシメタルニ過キザリキ即チソノ一ハ
土耳格政府ニ向ヒ其ノ自由意思ヲ以テ叛
亂セル臣民ノ要求ヲ容ルベキヲ勧告スル
ト其ノ二ハ土耳格ガ右ノ勧告ヲ拒絶シタ
ル場合ニハ列國ハ各自單獨ニ仲裁ノ申
込ヲ為スベシト言フニアリテ両交戰國
ニ休戰ヲ命シ若クハソノ中ノ一方ニ強制
ヲ加ヘテ列國ノ仲裁ニ従ハシムルノ説
ハ遂ニ議定書中ニ掲グルニ及バザリキ
露帝ハ此ノ決議ヲ見テ大ニ激昂シ更ニ

四月十六日ノ廻文ヲ以テ同盟國ノ諸君主ニ向ヒ希臘ニ干渉ヲ加ヘムコトヲ稟議シ言フ是レ一方ニハ人情ノ愛ノ為メニ他方ニハ革命危難ヲ避ルガ為メニ須臾欠クベカラザル者ナリト然レドモ帝ハ固ヨリ此ノ稟議ノ能ク効果ヲ奏スベキヲ期シタルニアラズ而シテ實際ニ於テモ帝ノ此ノ提議ハ亦ソノ列國會議ニ於ケル帝ノ提議ト均シク全ク失敗ニ終リタリ

露佛墺普ノ四國ヨリ土耳格政府ニ對スル請求ハ世人ノ逆ジメ期待セシ所ニ違ハズシテ斷然拒絶スル所トナレリ(千八百二十五年六月)是ノ時ニ方リ土帝マムードハ往日ニ比シテ一層ソノ執拗ヲ加ヘ四國ノ請求ニ吞フルニソノ臣民ニ自由ヲ附與シ權利ヲ保護スルニハ宜シクソノ全然服從ヲ表シタル後チニ於テスベク且ツ自己トソノ臣民トノ關係ニ就キテハ決シテ外國ノ干渉ヲ受クルヲ肯ムゼザル旨ヲ以テセリ蓋シ土帝ハ是ヨリ先キイブラヒンガモヒヨリ上陸シテ(千八百二十五年一月)ナヴラシ及ビトリポリツアヲ陷シ(同年三月)進ミテ希臘ノ國都ノープリーニ迫レルヲ見テソノ希臘ヲ討滅スルコトヲ必ス近キニアルベシトナシソノ意氣頗ニ前日ニ倍シ斷シテ列國ノ請求ヲ拒絶スルヲ憚カラザリシ

ナリ而シテメテルニツケモ亦同一ノ理由ニ依リ希臘ノ敗亡復タ疑ヲ容レズト思料シソノ能ク其言ヲ以テ露帝ヲ欺キ之ヲシテ重要ノ機會ヲ失ハシメ由リテ以テ東亞ニ於ケル露國ノ勢力ヲ控制セシヲ誇リ其ノ年ノ七月露帝ニ向フテ再ビ聖彼得堡ノ列國會議ヲ開カムコトヲ稟議セリ他ナシ此ノ時ニ於テ列國會議ヲ開クモ復タ露帝ノ能ク為スニ足ルナキヲ知リ故ニ此ノ議ヲ發シテ之ヲ朝弄シタルナリ故ニ露帝モ亦冷然トシテ此ノ稟議ニ答ヘテ列國會議ハ既ニ閉會ヲ告ゲテ再ビ之ヲ開クノ必要ナシトナシ希臘鎮定ノ事ハ復タ深ク関心スル所ニアラズトナシ政洲列國ニ向フテ復タ一モ求ムル所アラズトナシ土耳格ニ對スル自己ノ要求ニ就キテハ自己ノ獨力ヲ以テソノ満足ヲ得ルノ手段ヲ竭スベシトナセリ是ヨリ後チ露帝ハ頻リニ土耳格政府ニ向ヒ土耳格官吏ガ今猶オダニユーブ沿岸ノ公領地ニ於テ不正ノ權力ヲ行ハル件ニ就キテソノ約束ヲ実行セザルヲ嚴責シセルビヤ人ノ為メニソノビユシヤレストノ條約ニテ定メタル自由權ヲ與ヘムコトヲ要求シソノ代議士ノ千八百二十一年以来君士坦丁堡ニ幽囚セラレタル者ノ放免ヲ迫リ而シテ露國ノ軍隊ハ夥シクプリユト附近ニ集リ露

帝モ亦ソノ年ノ九月ヲ以テ南部地方ニ赴キ露土ノ間ニ極メテ不穏ノ形勢ヲ現出シタリ

是ニ至リテハ術数ハ適〻ソノ平生憂惧禁スルコトナク而シテ四年以来務メテ之ヲ防止シタル露土ノ戦争ヲ促ス媒介トナリ而シテ之ト同時ニ帝職ノ方面ニ於テモ亦ソノ狡計ノ為メニ亦自ラ禍ヲ招クニ至レリ

帝職政府ハメテルニッチノ期待セル所ニ反シテ俄カニ滅亡ニ至ラズイブラヒハソノ應ニ最後ノ打撃ヲ加フベキ秋ニ於テ俄然トシテソノ攻撃ヲ中止シソノ年ノ七月埃及兵ハノープリーノ囲ヲ解キトリポリツアー及ビナヴランニ退ケリ是シ蓋シ英國ノ一士官ハミルトンナル者ソノ政府ノ内命ヲ受ケテ英國ガ帝職ノ為メニ干渉ヲ加フルノ意アルコトヲ告ゲテ埃及王ヲ恐嚇セシガ為メニ頓ニ此ノ形勢ノ變動ヲ来シタル者ニシテ當時カンニングハ露帝ノ怒甚シク帝職ノ形勢頗ル危急ナルヲ視テ久シク袖手傍觀スベニアラズト思料シ且ツ帝職ニ於テハ佛國党ノ勢力益〻強大ヲ加ヘヌムール公ヲソノ王ニ戴クノ説ヲ為ス者寡ラサルヲ知リ遂ニ意ヲ決シテ帝職ノ急ヲ救ハムト欲シ一言ヲ發シテ能クノープリーノ囲ヲ解キ而シテ英國ハ此ノ一挙

ニ由リテ希臘人ノ間ニ大ニソノ勢力ヲ振張スルヲ得セシメタリ是ノ時ニ方リ希臘ノ國都ハ緩カニソノ急ヲ免ルヽコトヲ得タリト雖ドモモレ一ノ全部ハ今尚ホ殆ト埃及軍ノ有ニ帰シミソロンギ一ハ土耳格兵ノ合囲ヲ受ケ希臘ガソノ保護ヲ一ノ強大國ニ仰グノ必要ハ前ニ比シテ一層ソノ甚シキヲ加ヘリ故ヲ以テ同年八月希臘國民ハ英國政府ニ向フテ公然ソノ保護ヲ與ヘソノ國王ヲ指定セムコトヲ請願シ多年英國ニ居住シテ大ニ英國政府ノ信用ヲ得タルサックスコブールノレオポルド公ガ將來ノ希臘國王タルベシトハ當時世人ノ齊シク傳唱スル所ニテア

リキ爰ニ至リテカシニングノ政策ハ着々ソノ効果ヲ生シ希臘ハソノ掌中ニ落チ東政問題ハ復タ英國ナクシテ之ヲ決スルコト能ハザルノミナラズ英國ハ將ニソノ独力ヲ以テ此ノ問題ヲ決セムトスルノ勢ニ際會セリ

然レドモ英國政府ハ事ゴトニ慎重ヲ旨トシ希臘ノ請求ニ對シテ敢テ明白ナル承諾ヲ與フルコトアラザリキソノ故他ナシ其ノ希臘ノ請求ニ應スルハ是シ則チ土耳格ト不和ヲ構フルハ英國ノ新シテ為ス能ハザル所タレバナリ然レトモ英國ハ市敢テ希臘人ヲ失望セシムルコトナク同年十月一ノ公文ヲ送リテ英

國ハ即時ニ希臘ノ請求ヲ容レソノ局外中立ノ藩籬ヲ踰エテ援ヲ之ニ與フルコトヲ能ハザルモ而モ終始之ヲ掩護シ何カナリ邦ニ論ナク苟モ之ニ對シテソノ利益ニ反スル措置ヲ為ス者アルトキハ必ズ之ヲ制止スベキ旨ヲ通知セリ

既ニシテ露帝ハ墺國政府ノ不信ヲ憤ホリテ款ヲ英國ニ通シソノ獨力ヲ以テ土耳格希臘間ノ紛爭ヲ調停セムコトヲ請ヘリ而シテソノ後チ佛墺普ノ三國モ亦英國政府ニ向フテ一ノ稟議ヲ為セリ爰ニ至リテカンニングノ政策ハ殆ドソノ挺利ノ頂点ニ達シタリ然レドモ列國ノ此ノ擧ニ出デタルハ固ヨリ他ニ慮ル所ナクムバアラズ殊ニ露帝ニ至リテハ希臘ヲト戰ヲ開キ仍テダニーブ沿岸ノ諸公領地ヲ侵略セムト計リタルコト必然疑ヲ容レズ然レドモカンニングハ預ジメ之ニ慮ル所アリテ一モソノ防備ヲ怠ルコトナク露兵若シ一歩タリトモ「プリユット」ヲ過クルトキハ英國ハ直チニモシ及ビ希臘ノ諸島ヲ占領スベキヲ聲言セリ

是此ノ如ク東歐ノ形勢漸ク危急ニ迫ルヲ視テ亞洲列國ハ皆奇シク目ヲ睜リテソノ形勢ヲ觀望シ人民恟々トシテ安ム

スル所ヲ知ラザリシガ適ニ意外ノ一大變
報アリテ政洲全体ノ政策ハ頓ニソノ方向
ヲ一變シタリ露帝亜歴山一世ハ近時ソノ
政策ノ着々失敗ヲ招キタルニ失望シ鬱々ト
シテ病ヲ釀シ千八百二十五年十二月一日享
年纔カニ四十八歳ニシテタガンローグニ崩殂
セリ是ヨリ先キ政洲列國ノ間ニ變生セシ
事變ニ徴スルニ帝ノ首唱ニ由リテ成立セ
ル神聖同盟ハ帝ノ生時ヨリ既ニ瓦解ノ
徴ヲ示シソノ死後永ク存スルコト能ハザ
ルハ必然疑ヲ容ルベキニアラズ且ツ帝ハソ
ノ意思行動終始又覆變更シ易ク之
シガ為メ神聖同盟ハ帝ノ期望セル二大

目的ニ就キテ一モソノ実効ヲ奏スルコト能ハ
ザリシ蓋シ帝ハ神聖同盟ニ由リテ永久
ニ政洲ノ均勢ヲ保障セムコトヲ望メリ
而シテ政洲ノ均勢ハ昔日ニ比シテ一層
ソノ危キヲ加ヘタリ帝ハ諸國ノ帝王ノ
結合ヨリ成レル神聖同盟ニ由リテ人民ニ
自由ヲ得セシメムコトヲ望メリ而シテソ
ノ同盟ハ適ニ人民ノ自由ヲ拘束スルノ用
ヲ為シタルニ過キズ加フルニ帝自身モ
亦ソノ野心ニ馳ラシテ政洲ノ平和ヲ攪
亂シ復古政策ノ首唱者トナリ而シテ
帝ガ自ラ為セシ所ヲ自ラ知ラザルノ甚シ
キソノ死期ニ臨ムニ至ルマデ猶ホ固ク神

聖同盟ノ趣旨ヲ信シテ變スルコトナク又
旦ツ常ニ自由旨義ヲ把持シテ渝ルコト
アラズト揚言セリ

外務省